

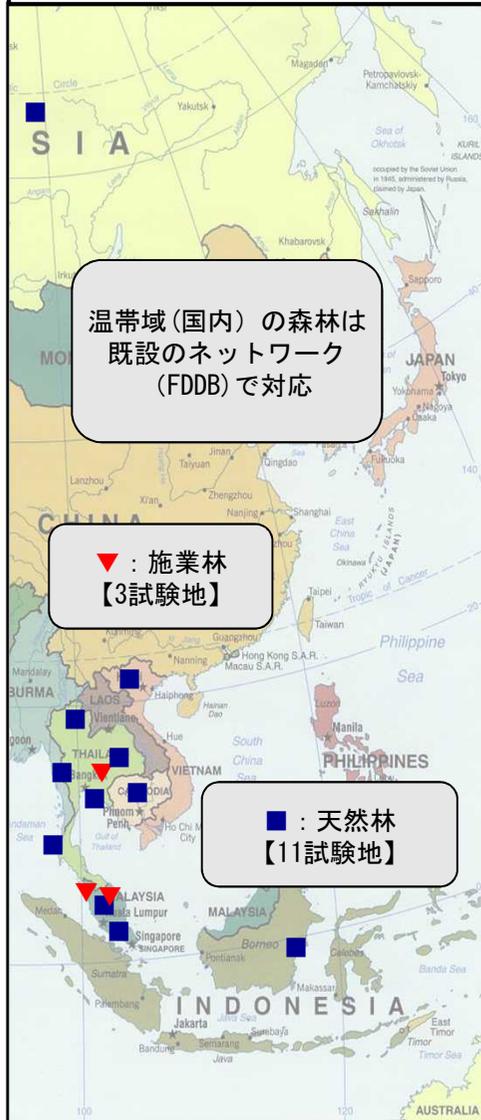
東アジアにおける森林動態観測ネットワークを用いた森林炭素収支の長期変動観測

本研究でネットワーク化する
試験地群 (6カ国14カ所)

H26年～29年度 独立行政法人 森林総合研究所
独立行政法人 国際農林水産業研究センター

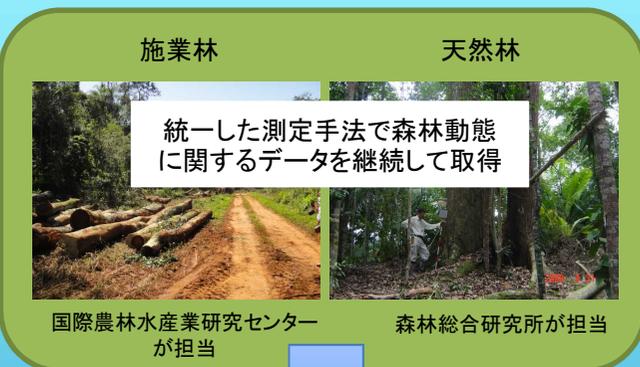
【本課題のポイント】

- 「地球観測の推進戦略」の取組の中でも気候変動予測研究や森林炭素収支の変動把握には、森林動態の長期モニタリングデータの活用が期待されることから、観測ネットワークによる組織的なモニタリングが重要である
- 森林総合研究所と国際農林水産業研究センターが共同で実施することにより、天然林だけではなく、施業林も含む多様な森林を包含した東アジアの森林動態観測ネットワーク構築が可能となる



サブテーマ1

森林動態観測ネットワークによる森林炭素収支の長期モニタリング体制の構築



- 高精度の生態系炭素プールのデータ収集
- モニタリングデータによる炭素蓄積量の年々変動の相互比較



データを提供

開発する手法を提供

データを解析

サブテーマ2

モニタリングデータを活用した炭素収支測定手法の高度化

- 推定精度を低減させない炭素蓄積量の測定手法を開発



森林総合研究所および国際農林水産業研究センターが担当

本課題を実施することによって、

- 東アジアの森林炭素収支モニタリングデータの精緻化
- モニタリングデータの共有化を促進する体制の確立
- 国際的な取組(IPCCやIPBES)への科学的知見の提供
- 森林炭素モニタリング構築に適用可能な測定手法の開発
- 能力開発の実施による測定技術の普及

などが達成されることが期待される。